

平成19年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本年度も昨年に引き続き7つの重点課題に取り組んだ。

授業改善の取り組みでは、互見授業の実施と生徒による授業評価をとおして教諭全員が1・2学期中に1回以上の互見授業を実施し、授業の改善と質の向上に取り組んだ。

次に、生徒による授業の評価の実施割合は1学期ではやや少なかったが、2学期にはその割合が多くなり、生徒からの評価を参考に授業の改善への取り組みが行われた。

他の教員の授業を参観することが十分に行なえなかったことから、授業の参観については、授業変更白板への掲示方法を工夫し、全職員への周知徹底を図り、一人でも多くの教員が参観できるように改善したい。

進路指導の充実では、2年生全員による一斉のインターンシップの実施において事前・事後指導を含め予想以上の成果を上げた。特に事後指導の一つとして各クラスで実施した発表会では、自分が研修した企業以外の企業にも興味を示し、他の生徒の発表を真剣に聞くなどの姿が多く見られた。また、報告書の作成などにも積極的に取り組むなどの成果が見られた。2年生全員のインターンシップ実施については全職員の協力と指導はもとより、各企業の理解と支援のお陰であり、今後も企業との連携を深め、実のあるインターンシップの実施を目指したい。一方、遅刻回数の減少では、朝寝坊や怠惰による遅刻者は少なくなったが十分な結果ではなかった。次年度は、学科、学年を中心に朝の声掛けなどの指導強化をとおして、生活習慣の改善に努めさせたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

人間力豊かな、ものづくりのスペシャリストとしての工業人の育成を目指す本校の教育目標を具現化するよう、生徒の実態に即した目標や方針、計画などを検討していかねばならない。

学習意欲の向上では、互見授業の実施や参観、生徒による授業の評価を積極的に行い、よりわかる授業、学習意欲を高める授業など、授業の改善や質の向上に努める必要があると考える。また、2年生全員によるインターンシップの実施により、地域産業界との連携をさらに強化し、早期からの望ましい勤労観・職業観の育成に努め、多様化する生徒の進路指導の充実に努める。

さらに、学校と家庭との情報の共有を図り、朝寝坊や怠惰による遅刻の防止など生徒としての節度ある行動・態度がとれる指導をとおしての人格形成に努めさせたい。

本年度も学校評議員からは概ねその目標が達成されたとの評価であった。次年度以降も職員間の連携を密接にとり、達成度のみで満足することなく、方針、計画などの改善を検討し、積極的に課題に取り組むたい。